

議会だより

3月定例会 No.27
平成24年4月26日

発行 石川県志賀町議会

ししか

ヒウチダニキクザクラ (石川県指定文化財)

	ページ
平成24年度当初予算	
対前年度10億円強の積極型に	2
介護保険料を引き上げ	6
志賀原子力発電所ストレステスト報告	10
小学校再編の方向性は (一般質問)	11
グループ紹介 まちづくり倶楽部	18



先生のお話はちゃんと聞くよ (高浜小学校 新一年生)

固定資産税や法人町民税が減少の中
早期に実施すべき事業を優先的に計上

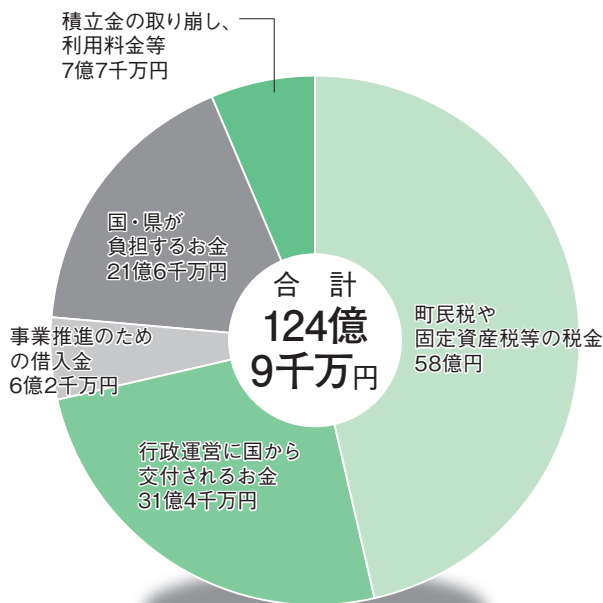
全員賛成

**新年度
予算総額 234億7736万円**

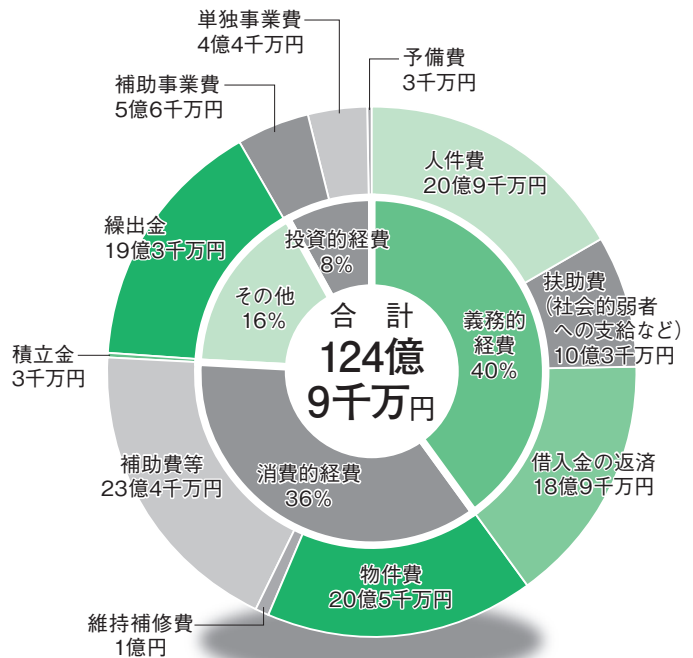
前年度比4.5% 10億942万円の**増**

一般会計は前年度比2.4%増の124億9千万円

一般会計の財源（歳入）



一般会計の使いみち（歳出）



町税	24年度	23年度	前年度比
個人町民税	7億9183万円	7億4997万円	5.6%増
法人町民税	1億5713万円	2億3000万円	31.7%減
固定資産税	46億334万円	50億2309万円	8.4%減

町税は前年度比7%の減

歳入のうち町税では、個人町民税が税制改正等の影響で前年度より増額したものの、原子力発電所の大規模償却資産にかかる固定資産税、電力会社の減益見込みによる法人町民税の減額、町税全体では前年度比7%減の4億3千万円余りを減額して歳入に計上しました。

3月定例会は、3月1日から16日まで16日間の会期で開かれました。町長から提案された平成24年度一般会計予算のほか、各会計予算、23年度補正予算、条例の制定や改正、指定管理者の指定、財産の貸付けなど43議案を審議し、いずれも全会一致で可決しました。町政一般質問では、5議員が登壇し、町長の考えをたきました。

平成24年度の主な事業

予算編成方針



町長 小泉 勝

早期に実施すべき事業を優先

歳入では、固定資産税や法人町民税が減少する中で、厳しい予算編成となったが、早期に実施すべき事業を優先的に計上し、一般会計、特別・企業会計を合わせた予算総額は、対前年度10億900万円余り増の234億7736万円となる積極型予算となった。

住民生活に直結する施策を引き続き実施し、住民福祉の向上を図っていく。

世界農業遺産登録を契機とする振興策

能登の里山里海振興

217万円

スマートドライブ

プロジェクト実証事業

190万円

世界農業遺産登録を契機に、能登の里山里海振興事業により、町内の小中学生を対象とする志賀町の里山里海を題材にした絵画展を開催します。また、スマートドライブプロジェクトでは、シーサイドヴィラ渤海で、町へ訪れる方たちへの利便の向上を図るため、電気自動車の充電スタンドの整備などを実施します。



世界農業遺産ロゴマーク

地域産業の振興と活性化

カントリーエレベーター改修事業 388万円
県単土地改良事業 960万円
安部屋漁港整備事業 7757万円

地頭町商店街活性化事業への助成や北陸新幹線金沢開業を見据えた地域資源の見直しと発掘を行います。

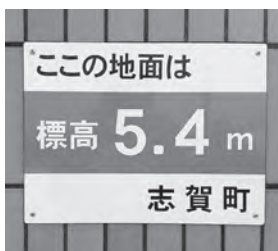
農林水産業基盤整備のほか、農産物のネットショップ事業の展開等を図ります。

災害に強い町づくり

地域防災計画の改定

621万円

標高表示を各集落の主要箇所312地点に設置するとともに、町の総合的な防災計画を策定し、町民の生命財産を守るため、万全の対策を講じます。



志賀町役場の表示板

次代を担う子供たちへの支援事業

子どもインフルエンザ予防接種助成

408万円



保育園改修事業や統合小学校整備事業、富来中学校整備事業のほか、子どもインフルエンザ予防接種の助成などを行い、教育環境の整備や子育てを支援します。

生涯学習の推進

陸上競技場改修事業

3401万円

平成24年度、志賀町が石川県民体育大会の中心地となるため、万全の態勢で臨みます。文化面では、文化財保存事業のほか、広く生涯学習の推進を図ります。



平成15年度の県体の様子

住民福祉の向上に向けて

主要な事業のほか、住民福祉の向上のため、重要な社会資本である下水道整備事業やケーブルテレビ事業なども継続して展開します。

また、富来病院では、新しくMRI、電子カルテシステムを導入し、診断能力の向上と医療事務の効率化を図ります。

予算特別委員会

予算審査は、議長を除く15人の委員で構成された特別委員会（田中 正文委員長、南 政夫副委員長）を設置し、3月8日、9日の2日間にわたって委員会を開催しました。

審査の中から、主な質疑内容を報告します。

一般会計

能登の里山里海 振興事業の中身は

問 能登の里山里海振興事業の具体的な中身は。

答 現在調整中だが、志賀町を描く美術展とタイアップして、子どもたちにも参加してもらおう美術展を開催したい。



志賀町を描く美術展

統合小学校に 特別財政基金を

問 統合小学校の整備に多額の資金がかかるが、特別財政基金を充ててはどうか。

答 特別財政基金は、志賀地域の振興に使うことになっていて、議会の了承が得られれば、これを使わせてもらいたい。

教育扶助費の内容は

問 小学校費、中学校費ともに教育扶助費があるが、内容はどうなっているのか。

答 小学校、中学校ともに、生活困難やひとり親家庭で、収入が少なく、生活優先のため、学用品等を揃えることができない場合や給食費が負担できない場合などにその経費を町が負担している。

志賀高校教育 振興会補助金は

問 志賀高校教育振興会への補助金はどのように使われているのか。

答 オープンキャンパスや総合学科の講師派遣経費など、学力向上や学習環境の整備に補助金を使っている。

町出資会社の 社長は副町長で

問 町と契約している町出資会社のトップが町長というのはいくなくないと思う。副町長に代わっては

答 どうか。法的に問題はないが、町長になって日が浅く、会社の中身を把握したいので、もう少し続けさせてほしい。

核燃料税の配分は あきらめたのか

問 核燃料税を知事は配分しないと新聞で見たが、志賀町はあきらめたのか。

答 核燃料税の配分は以前から要望しているが、県は配分できないと言っている。

来年度に核燃料税の見直しがあるので、再度要望していく。

診療所は富来病院 と統合できないか

問 志賀クリニックは民間に任せて、富来病院に統合すればいいのでは。

答 志賀地区に小児科の必要性があるため、富来病院との統合は考えていない。



町が出資する(株)志賀町振興サービスが指定管理する施設

予算内容を徹底チェックしました

特別・企業会計

処理場の改修計画は

問 下水道関連施設で、古い処理場の改修計画や財源はどうしていくのか。
答 一番古い倉垣を最初に改修し、順次古いものから改修していく。

工事には国の補助がくが、なるべく費用がかからないようにする。

水道料金の統一で収支はどうなる

問 富来地区との水道料金を統一するときの説明では、10年間は大丈夫と説明したが、今後どう

なっていくのか。
答 人口の減少などにより、再度シミュレーションしたところ、減益が予想される。

議会で中継をインターネットで

問 議会中継は、ケーブルテレビで行っているが、インターネットでもしてほしいと住民から要望を聞いている。中継できないか。

答 議会で審議してもらったが、経費がかかるため先延ばしになった経緯があるが、近隣の市町では流しているので、今後検討していく。



供用開始後20年目となる倉垣処理場



生中継で議会がお茶の間でより身近に

(▲減)

平成24年度 歳出分		予算額	前年度増減額	増減率	採決の状況
一般会計		124億9000万円	2900万円	2.4%	全員賛成
特別会計	国民健康保険	28億2688万円	▲2164万円	▲0.8%	全員賛成
	後期高齢者医療	3億4803万円	3516万円	11.2%	全員賛成
	農業集落排水事業	4億8633万円	9143万円	23.2%	全員賛成
	公共下水道事業	11億9761万円	5049万円	4.4%	全員賛成
	地域し尿処理施設整備事業	5230万円	527万円	11.2%	全員賛成
	簡易水道事業	1725万円	▲57万円	▲3.2%	全員賛成
	介護保険	25億7232万円	9232万円	3.7%	全員賛成
	診療所事業	1億5573万円	▲202万円	▲1.3%	全員賛成
	ケーブルテレビ事業	4億5100万円	1億1682万円	35.0%	全員賛成
企業会計	水道事業	11億9081万円	1億1万円	9.2%	全員賛成
	富来病院事業	16億8907万円	2億5214万円	17.5%	全員賛成

高齢者・要介護認定者数、
介護サービス利用の増加を予測

介護保険料を**引き上げ**

全員賛成

所得段階	対象となる方	保険料の調整率	平成23年度	平成24年度から平成26年度まで
第1段階	生活保護受給の方 世帯全員が住民税非課税で、老齢福祉年金を受給している方	基準額 ×0.5	27,840円	33,840円
第2段階	世帯全員が住民税非課税で、本人の前年分の合計所得金額と前年の課税年金収入額の合計が80万円以下の方	基準額 ×0.5	27,840円	33,840円
第3段階	世帯全員が住民税非課税で、第1・2段階に該当しない方	基準額 ×0.75	41,760円	50,760円
第4段階	本人が住民税非課税で、世帯の誰かに住民税が課税されている方	基準額	55,680円	67,680円
第5段階	本人が住民税課税で、前年分の合計所得金額が190万円未満の方	基準額 ×1.25	69,600円	84,600円
第6段階	本人が住民税課税で、前年分の合計所得金額が190万円以上の方	基準額 ×1.5	83,520円	101,520円



健康で充実した毎日を

**介護保険料を
引き上げ**

65歳以上の方の介護保険料は、介護サービス等に要する費用の見込みに基づいて3年に1度見直されることになっています。第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に伴い、平成24年度からの介護保険料を改定しました。高齢者の推移から、今後も要支援・要介護認定者数の増加が見込まれます。(全員賛成)

**暴力団を
許さない町に**

町民の安全で平穏な生活を確保し、社会経済を健全に発展させることを目的に、町・町民・事業者の責務を明らかにし、町の措置、町民等に対する支援、青少年の健全な育成を図るための措置、暴力団員等に対する利益供与の禁止等を定めました。(全員賛成)



いこいの村能登半島



町道の認定地を視察

職員定数を 見直し

町定員適正化計画に基づき、町定員管理の実施に伴い、各事務部局の職員数が減少しているため、平成17年9月の合併時に制定した職員定数を、町長の事務部局の職員385人を325人に、教育委員会の事務部局の職員55人を45人に見直し、新たに監査委員補助職員の定数も決めました。
(全員賛成)

町長の給料を 引き続き減額

昨年4月から1年間、特別職、一般職の職員の給料月額額の減額を行ってきましたが、町長については、引き続き10%の減額を実施します。
(全員賛成)

財産の貸付け

いこいの村能登半島の土地、建物および付属施設を、株式会社いこいの村能登半島に年額4千万

円で貸し付けます。
(全員賛成)

選挙による農業 委員の定数を削減

農業委員会の選挙による委員の定数について、現行の20人から15人に削減しました。
(全員賛成)

町道の認定

館開地内において、新たに1路線を認定。
路線名 茶屋出支線
(全員賛成)

平成23年度一般会計補正予算

1億9290万円増額

全員賛成

減債基金等の積み増し、県営ほ場整備、富来中整備を増額

23年度各会計別補正後の総額

一般会計	133億9154万円	
国民健康保険	28億9240万円	
後期高齢者医療	3億1365万円	
農業集落排水事業	4億325万円	
公共下水道事業	11億7541万円	
地域し尿処理施設事業	4452万円	
介護保険	25億6408万円	
診療所事業	1億6758万円	
ケーブルテレビ事業	3億4924万円	
簡易水道事業	2129万円	
水道事業	収益的収支	6億163万円
	資本的収支	3億9483万円
病院事業	収益的収支	11億9084万円
	資本的収支	2億4540万円

(金額は1万円未満切り捨て)

平成23年度の一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ1億9290万円を増額。総額133億9154万円としました。
歳入では、普通財産の売り払いを主とする財産収入や富来中学校整備に対する国庫補助金、町債の増額が主なものです。
歳出では、各事業の確定および精算に伴う事業費の減額や減債基金、地域振興拠点施設基金等の基金積み増し、県営ほ場整備や富来中学校整備事業費等を増額しました。

一般会計 主な歳出

- 減債基金積立金 4000万円
- 除雪作業委託費 2000万円
- 富来中学校整備 1億5600万円
- スポーツ振興基金積立金 2500万円
- 県営ほ場整備事業負担金 4900万円

委員長	南	政夫
副委員長	南	正紀
委員	福田	晃悦
〃	下池外	巳造
〃	櫻井	俊一
〃	山本	辰榮

副町長と教育長の給料は減額しないのか

改正後の職員定数

区分	定数	備考
町長の事務部局	325	
議会の事務部局	4	
選挙管理委員会の事務部局	2	併任
監査委員の事務部局	3	併任
農業委員会の事務部局	2	併任
教育委員会の事務部局	45	
会計課の事務部局	4	

※定数は上限値で、実数と相違があります。

質疑 町長等の給与の特例に関する条例の改正で、町長は引き続き給料から10%を減額するが、副町長と教育長は減額の対象にしないのか。

答弁 給料の減額は、町の事情により町長のみとしたい。

副町長は、減額しない場合でも県内で下から5番目、教育長は下から7～8番目で、高額でないため減額しない。

質疑 志賀町職員定数条例の改正で、合併時の計画から見て職員は減っているのか。

答弁 合併時に策定した志賀町定員適正化計画により、平成23年度は合併時から89人減り、361人になった。

教育民生常任委員会

委員長	堂下	健一
副委員長	寺井	強
委員	富澤	軒康
〃	林	一夫
〃	久木	拓栄

海岸漂着物の清掃はできたのか



漂着物が堆積する海岸

質疑 海岸漂着物の清掃にかかる県支出金を減額しているが、清掃しているのか。

答弁 県支出金は、当初予算の額より少なく交付されたため減額したが、清掃については、門前境から羽咋市境までの海岸でゴミ収集を1回行った。

● 富来病院修学資金貸付制度とは ●

不足する看護師確保のため、看護師等の養成施設(学校等)に在学する方に修学資金を貸与し、卒業後に町立富来病院の看護師として採用した場合に一定条件を満たせば、返還免除とすることなど、看護師の確保及び質の向上を図ることを目的として、平成21年に条例を制定した制度です。

質疑 富来病院における修学資金の貸し付け制度は、周辺市町の制度とそん色はないのか。少しでも優位な条件で、看護師確保に努めてもらいたい。

答弁 能登地区のほとんどの病院でこの制度を実施しているが、どこもほぼ同じ内容になっている。今後は、看護師不足を解消するため、貸付金額を引き上げる方向で見直す必要があると考えている。

産業建設常任委員会

委員長 越後 敏明
副委員長 稲岡健太郎
委員 須磨 隆正
" 田中 正文
" 戸坂忠寸計

送水管の耐震化を図れ



送水管の交換で水の安定供給を

質疑 地震で送水が止まればパニックになる。送水管の改良拡張にあたっては、耐震補強を早急に進めてもらいたい。

答弁 平成23年度に調査し、25年度から耐震計画を実施し、25年度から志賀・富来全体で順次計画的に耐震工事を実施していく。



県営ほ場整備事業が実施される酒見地区

質疑 ほ場整備事業は今後も行っていくのか。受益者負担ほどの程度になるのか。

答弁 現在は、県営ほ場整備事業として、酒見地区で事業を実施しており、これ以外で3地区から実施の相談がある。負担率は、酒見地区で5%となっているが、後年度のソフト事業の実施により、その分が戻っ

てくる制度があるので、戻るように事業を進めている。

質疑 館開地内の町道の認定で現地を見たが、現地の路面は周辺より高く、隣接の宅地に雨水が侵入する恐れがあるため、工事にあたっては、配慮が必要である。

答弁 現段階では、町道の認定であり、舗装は、今後要望が出た段階で配慮して考えていく。

高浜保育園の指定管理が見送りに

去る12月定例会で可決した「志賀町立高浜保育園の指定管理者の指定」について、社会福祉法人志賀町乳幼児保育園を高浜保育園の指定管理者とする予定でしたが、指定管理者の協定内容を双方で協議した結果、合意が得られなかったため、これを見送ることになりました。

2月15日に開催した全員協議会で、小泉町長はその経過を説明し、議員の了解を得ました。



志賀原子力発電所は もっと住民理解の取組みを



北陸電力から2号機のストレステストの結果の報告を受ける委員

2月17日

志賀原子力発電所2号機ストレステスト 一次評価の結果は

町民の安全安心を踏まえた理解が必要
もっと前向きに理解を求めよとの意見も

2月17日、議会は原子力発電所対策特別委員会を開催し、北陸電力から、志賀原子力発電所2号機の安全性に関する総合評価（ストレステスト）一次評価の結果の報告を求めました。

活用して、安全強化策として、消火系、主蒸気系、原子炉補機冷却系の各配管等の耐震裕度向上工事を実施しているとの説明もありました。

ストレステストとは、地震、津波等に対して原子力発電所にとどの程度の余裕があるのかを明らかにするもので、緊急安全対策等の実施後、想定する地震の揺れの強さの1・93倍、津波は15・3

議員からは、今までの人為的ミスへの作業員の教育の徹底を求める意見や「テストの結果が良くても、町民の安全に対する意識と安心は必ずしも一致しない。」として、さらなる住民理解への取り組みを求めました。

日まで耐えられることなどの説明がありました。

そのほか、昨年10月から定期検査を開始していた1号機が、停止期間を

北陸電力からは、「ミスには、しっかりとした対策を取り、住民への理解は、公募による発電所見学など幅広く理解を求めたい。」としました。

志賀地域の小学校再編

早く方向性を示すべきだ

早い時期に方針を説明する

町長

福田 志賀地域の小学校再編について、集中改革プランでは、「平成26年度開校を目指して」と明記され、小学校保護者はもちろん、25年度実施予定の保育所統廃合計画の対象保護者も大変注視している。

保育所統廃合に関する説明会に同席した際に、「小学校統合の方向性が出ないと転園先の保育園を決めかねる」という保護者の声も多く聞かれた。



福田 晃悦 議員

新年度予算案に、統合小学校建設事業として1億2352万円が計上されており、具体的な建設場所や時期など、できる限り早期に方向性を町民に示すべきだ。

町長 地域にとって、今後の通園、通学体系、保育や就学環境は大変重要で関心があるということは十分認識している。

統合小学校の開校は、平成26年度を予定していたが、さまざまな事情から27年度開校を目

指し調整している。何校になるのか、その場所はどこになるのかは、24年度のできるだけ早い時期に方針を説明する。



町の将来を担う子供たち

リトル・マエストラ 今後の当町の支援は

検討を進めている 積極的に町をPRしたい

町長

今後、能登有料道路の全線無料化、北陸新幹線の金沢開業や「能登の里山里海」が世界農業遺産の認定を受けたことも併せ、市町がそれぞれの特性を生かした事業を展開していく必要がある。

本映画を一過性で終わらせないためには、今後の本町のバックアップとPR活動への支援が不可欠だ。

町長 本映画で使われた劇場車や看板、ロケ風景の写真等を展示し、広く県内外に発信する。

本町での試写会の開催や映画館で上映前に本町の観光地やロケ地を紹介するシネアド（映画館でのCM上映）の実施。さらには、ロケ地マップの作成などいろいろな検討を進めている。

製作会社、ロケ支援委員会、観光協会の意見も聞きながら、世界農業遺産関連事業と併せて、積極的に町をPRしたい。

福田 本映画でのロケは町民・事業者・ロケ支援委員会といった文字通り「オール志賀」が一丸となり、映画製作を全面的に支援したことが多方面から多大な評価を受けている。

その他の質問

福田 「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」は、今や日本のみならず世界においてビジネス戦略の分野や行政サービスの手段として大いに活用されるツールである。

なかでも、フェイスブックは、完全実名登録制で、他のものと比べ情報の信頼性や機能の充実が勝るため、今年になって国内で飛躍的に普及し始めており、運用する自治体も着々と広がっている。本町でも運用を進めるべきだ。

町長 住民情報サービスを考える上で、暮らしたに役立つ情報が迅速かつ双方向に発信でき、住民とつながる利点があると思うが、現時点では、既存の情報システムを十分に活用し、情報伝達に努めていきたい。

今後は、県内先進地の状況を見極め、その内容を調査研究していく。



寺井 強 議員

副町長の評価と今後について

引き続き務めていただきたい 町長

寺井 山王副町長は、平成22年4月から2年間にわたり、町長の補佐役として町政に尽力してもらっている。

この間、自身の県職員としての豊富な経験と知識を活かし、率先して町の活性化、発展に向け活躍している。

町長が任期の折り返しにあつて、公約実現への意気込みが感じられる中で、町長の補佐役の存在が重要であると考えている。山王副町長のこれまでの実績と今後について、町長はどのように考えているのか。

町長 副町長は、これまで補佐役として、広範囲な行政課題に対応し、大きく貢献している。町祭実行委員長や「リトル・マエストロ」ロケ支援委員長としての活躍、北陸新幹線金沢開業や能登有料道路無料化を見据えた交流人口の拡大への取り組みなど、高く評価している。

県から副町長を招いた

場合は、2年間とするこ
とが多いようだが、これ
までの副町長の堅実な行
政手腕や積極的に町に溶
け込もうとする姿勢を見
て、引き続き副町長を務
めてもらいたいと考えて
いる。

町の山積する課題の解
決に向け、これまで以上
に手腕を発揮し、志賀町
の発展に尽力してほしい
と願っている。

副町長 3月で2年経つ
が、当初来た時と考えは
変わらず、積極的に町の
振興に努めて、町長の支
えになりたい。



続投の意欲を熱く語る山王副町長

富来中学校どう生まれ変わるのか

学力向上と部活動の充実で 文武両道を目指す

教育長

寺井 平成25年度に富来
中学校が旧富来高校に移
転するが、改修の完成後
に中学校がどのように生
まれ変わるのか。現場や
役場支所に完成予想図を
掲示して周知すべき。

教育長 新中学校の完成
予想図は、工事現場で掲
げ、町広報でも掲載する。

寺井 旧富来高校敷地に
残る石碑等は富来高校69
年の歴史と思い出があり、
同窓生の感情に配慮して
残してほしい。

教育長 石碑は、PTA
や同窓会の意見を伺い、
残す方向で検討する。

寺井 新中学校開校に向
けては、勉学はもとより
子供たちに将来に夢と希
望を与え、文武両道を目
指す部活動の充実も必要



69年間の歴史と伝統がこの校歌に凝縮

ではないか。

調整している。

教育長 移転後は、学習
環境面に配慮し、地域に
親しまれる学校づくりを
目指している。今後は、
平成24年度末に工事を終
え、25年度にパソコン教
室の充実を図り、夏休み
期間中に移転する予定で

部活動は、現在13の部
があり、中には全国レベ
ルの活躍があることは周
知のとおりで、学力向上
とともに重要な教育活動
の一環であるため、さら
に充実させていきたいと
考えている。

高山右近が福者に、町の対応は

ゆかりの町として紹介する

町長

堂下 高山右近は、追放先のマニラで没して400年になる2015年に、カトリックの「福者」として列福される予定だが、列福されると、国内外のカトリック信者が聖地の一か所として志賀町にも訪れることは間違いない。末吉地区にある銅像等の場所が分かりにくいという苦情もある。

町長 右近の子孫が本町代田と大分市萩原に残っていることが高山家の資料に示されている。

文献の整備や伝承等のとりまとめについては、右近に関する資料が少なく、謎が多いが、今後、新たな文献や資料が数多く発見されれば、検討していきたい。

町の観光資源としても大変魅力的な素材であり、今後、高山右近ゆかりの町として、観光ガイドにさらに詳しく紹介するとともに、誘導看板等の整備についても検討していきたい。



堂下 健一 議員



高山右近の銅像（末吉地内）

御前崎市は東海地震の震源地に近く避難先にふさわしくない

県内外複数の自治体と協定を結べるように努めたい

町長

町長 難先にふさわしくない。現在、2市以外に予定はないが、町民の安全・安心の確保に、より多くの自治体の協力が必要であり、県内外の複数の自治体と協定を結べるように努めたい。

堂下 ヨウ素剤の保育園や各学校への事前配備をすべきではないか。

町長 現在、保健福祉センターと富来病院に管理・保管している。現時点では、保育園や学校への配備は考えていない。国・県等から新たな指針が示されれば対応していく。

堂下 災害弱者の原発事故時の避難計画はできていないのか。

町長 弱者に対する災害時の対策について、要援護者の把握に努めており、災害時における支援体制の早期確立と各種支援団体への迅速な情報提供、その支援体制の強化を図ることにしている。

その他の質問

堂下 今シーズンの除雪体制に反省点はなかったのか。

建設課長 除雪やり残しの苦情があったが、現地を確認し、区長と協議し、地域の実情に即した除雪を実施した。

今後は、除雪業者と機種を選定などについて協議を行い、実情に即した除雪体制を取りたい。

堂下 図書館の閉館時間の延長と休日の変更は考えられないのか。

教育長 6月から8月の夏季期間中は閉館時間を30分延長し、6時半に閉館している。

21年には、9月から12月まで試行期間を設けて利用状況調査をしたが、利用者が極めて少数であった。

休館日の変更は考えていない。アンケートや利用実績でも祝日当日の利用よりも土曜日の利用が多い。

自治振興事業補助金 交付期限の見直しの考えはないか



越後 敏明 議員

これ以上、期間を延長することは
適当でない

町長

越後 地区自治振興事業補助金の交付期限は、平成27年3月31日となっている。補助金の使い道として、区の運営や生活環境の整備から防災にと、幅広く多岐に使用しているが、これらの期間を限定すべきではない。より有効に活用するためにも、補助金交付要綱を見直し、期限を延長する考えはないか。

町長 行政改革の観点から、これ以上交付期間を延長することは適当でなく、これまでどおり、27年3月までとしたい。例外的に、地元負担のある国県補助の事業採択の関係で、26年度までに事業を実施できない場合等に限っては、今後、取扱いを検討したい。交付期間までに申請ができなかった場合の残額については、24年度中に取り扱いを決定したい。

統合小学校は何校になるのか 場所はどこなのか

課題解決まで時間を

町長

越後 (志賀地域の) 統合小学校は2校の答申が出されたまま一年半が経過し、町民、保護者からどうなったのかと声が出ている。

町長 最終的な統合の形態がどうあるべきか、長

統合小学校は何校になるのか。答申どおり2校になるのか。その場所はどこなのか。



いち早く統合し、富来地区のすべての児童が通学する富来小学校

期的観点に立って課題を整理し、鋭意調整を進めている。

新年度予算では、すぐに実施設計に取り掛かれるよう予算計上しているが、方針決定は課題が解決するまで、しばらく時間をいただきたい。

越後 郡市広域圏は新規埋立処分場に関し、平成23年度に坪野区に対し、建設ありきではないとの確約文を入れ、環境影響調査の申し入れをした。同年に地域計画書を作成し、24年度には地区の先進地視察が計画され、処分場建設が既定化しているように見える。

この状況を、当該地区を抱える町としてどのように受け止め、町の基本的な考えはどうなのか。

町長 実施設計は、新規建設を決定したものでなく、具体的な案をもって地元で説明するための資料である。

先進地視察も、実際に稼働している施設を直接見てもらうことが、不安の解消に、もっとも分かりやすいと聞いている。

地元地区と同じ目線に立ち、広域圏の計画を注意深く見据えて、不利益が生じないよう協力体制を整えていきたい。

越後 処分場建設に対し、不安の解消、安心感の確立へ向け、具体的に町はどのような働きかけていくのか。

町長 地元地区の合意が最優先であるので、広域圏に対して、丁寧で納得できる説明を行うよう求めていく。

広域圏を構成する町として、可能な限り地元への協力をお願いしていきたい。

富来病院の経営健全化の効果は

病院一丸で経営改善に努める 町長

稲岡 第2次志賀町行政改革大綱の集中改革プランで、町立富来病院の健全経営化があげられているが、主要指標や病床利用率、経常収支比率などの経営収支状況は改善されているのか。

今後の取り組みは、新年度からの診療報酬改定への的確な対応、新看護基準の維持、電子カルテ導入による効率化、近隣病院との薬品等の共同購入など、あらゆる経営努力を行っていく。

町長 計画では、看護基準アップや経費節減などにより今年度黒字化を予定していたが、昨年度末に予想外の病院長の退職があり、入院・外来が減少し、赤字決算になる見込みである。

しかし、現在は新病院長を迎え、病院一丸で経営改善に努めている。



稲岡健太郎 議員



地域の基幹病院として機能している町立富来病院

稲岡 病院施設の老朽化への対応や医師不足の問題などがあるが、長期的な対策への取り組みはしているのか。

町長 地方病院では、常勤医師の確保が大きな課題であり、今後も大学病院や県との連携を密にし、医師の招へいに努めていく。

病院事務長の任期は長くすべき

他市町の動向を確認し検討 町長

稲岡 病院の事務長は、ここ5年間で4人交代しているが、実質的管理者であるため、短期間での交代では継続的な病院運営方針が取れず、経営状況が悪化しても責任を取ることなく、そのまま次の者に引き継ぐという悪循環が生じる恐れがある。

一般的に、公立病院では、素人の公務員の考えを適用して運営するため、効率的な運営はできないといわれており、現場との意見の違いや対立により、医師が病院を離れる原因にもなるとも聞いている。病院事務長の任期は長くすべきでないか。

町長 病院の事務長は、医師や医療職との連携、大学医局とのかかわりなど、他の部署にない特殊な業務だが、在任年数の長短よりも病院職員としての経験が必要な職と認識しており、適材適所の人事配置をこれからも進めていく必要があると考えている。

稲岡 病床数を削減し、稼働率を高めたり、事務職員を半減し、施設管理を民間に委託する病院もある。人口に対して病床数は適当かどうか評価すべき。

公立病院は地域医療の中核を担う施設なので、医療サービスの劣化や医療難民を生み出すことのないよう町長の懸念な判断を期待する。

町長 医療圏から判断すると、救急告示病院である富来病院は、地域医療の砦として必要な病院である。

病院規模は、病床が98床で、利用率は平成20年度から22年度までで、78%で推移している。今後の医師の確保や患者数、診療報酬改定の動向を踏まえて検討するが、現在は、統廃合や指定管理、民営化、民間譲渡などは考えていない。

町民に親しまれる議会だより をめざして

愛知県幸田町 2月6日



幸田町を訪れあいさつを述べる下池委員長

「議会だよりこうた」は、議会広報全国コンクールで優秀な成績を収めている。当日は、議会だよりの編集体制・方針・レイアウトなどについて研修を行った。

当町も視察受け入れの際に、他の議会から印刷費が安いと驚かれるが、幸田町は全頁フルカラーなのに一冊あたりの単価は当町よりも安い。町外の大手印刷業者を含めて入札を実施している。

大手に発注することで、校正・再編集の対応などが非常に迅速で、編集委員はレイアウト等の苦勞はするが、原稿・レイアウト共に手書きで良く、当町のように苦勞してパソコンに文字を入力してレイアウトすることはない。

委員会構成は、慣例により副議長が委員長、委員に各常任委員2人の7人としている。委員会を開催するときには議長がオブザーバーとして入っ



議会だよりこうた

ている。

この議会だよりの優れている点は、表紙写真の上手さにある。行事、イベント等に委員全員で自前のカメラを手に撮影をし、委員会が一番良い写真を採用しているとのことと、撮り方にもこだわりが感じられた。

そのほか、文章の作成、レイアウトもこだわって作成されており、住民アンケート、コラムや追跡記事の決め方等、編集方法を詳細に学んできた。

今回の視察の成果を生かして、今後さらによりよい議会だよりの作成に委員会をあげて取り組みたいと思う。

4年連続の受賞



6名の委員で議会だよりを製作しています

昨年4月末発行の「議会だよりしか」23号が、第26回町村議会広報全国コンクールで奨励賞をいただきました。全国コンクールでは4年連続の受賞となりました。

今後も皆さんに読んでいただけるように、親しまれる広報づくりを目指して、努力してまいりますので、ご愛読よろしくお願ひします。

町村議会全国広報コンクール
今年度は奨励賞

あの質問のゆくえ

今回、「あの質問のゆくえ」として、一般質問の提言などが町政にどのように反映されているのかお知らせします。

質問

被災者支援システム 本町での導入予定は

平成23年6月定例会

被災者支援システムは、災害時に被災者に必要なものが、必要な分だけ必要な時に届くといった災害支援の向上には、無くてはならない情報共有システム。原発立地町の当町は、県内で先頭を切って早期に導入をはかるべきだ。

町長答弁

年度内には実質的な 運用ができる状態に

現在、運用に向けた作業を行っており、今後、技術的に課題を解消し、年度内には実質的な運用ができる状態になる予定。

どうなった

計画どおり作業を行い 運用を開始した

計画どおり作業を行い、標準のシステムを導入し、関係部署と検討を重ね、現在は運用を開始しています。有事の際には支援システムでの対応が可能となっています。

このシステムは、被災者の氏名・住所等の基本情報を用いて、災害発生時に地方公共団体が行う被災者の支援業務に役立てることができるシステムです。

今後、避難所、緊急物資など災害からの復旧等業務を支援するための機能追加も検討します。

質問

ハザードマップ作成と避難場所の変更。いまだにホームページに掲載がない

平成23年6月定例会

23年3月の議会全員協議会で、町の海拔および津波被害のハザードマップの作成と新たな避難場所等の変更をお願いしたはず。いまだにホームページに掲載がないのはなぜか。

町長答弁

津波浸水想定区域図を 関係区長に配布した

23年4月下旬には、既にある津波浸水想定区域図を関係区長に配布、町民には5月の広報で周知し、町や県のホームページでもご覧になれる旨を掲載した。

どうなった

各家庭へ配布した

23年6月議会でハザードマップの作成費用を含む補正予算の可決後、作成に取り掛かり、24年4月に配布しました。

内容としては、標高を分かりやすく色分けした地図に主な避難道路や避難場所を図示し、津波に対する備えや注意事項を記載したものです。

まちづくり倶楽部

志賀町を元気にするため活発な活動をしている「まちづくり倶楽部」を訪ね、代表の石村高志さんにお話をお伺いしました。

もっと志賀町を明るく元気だ！



それぞれの得意分野で力を発揮し、明るく元気な町を作るメンバーの皆さん



代表 石村 高志さん (米町)

◆発足のきっかけは。

◇本町のまちづくり委員としての活動をきっかけに、町の高校生や小中学生と楽しみながら、「もっと志賀町を明るくしよう！」という思いで集まりました。

◆メンバーにはどのような方がいますか。

◇志賀町に在住し、各分野で活躍している青壮年層を中心に構成しています。中には、志賀町で農業をするため、これまで積み上げたキャリアを捨てて移住してきたメンバーもいます。

地元高校生もボランティアスタッフとして加わっています。

◆普段の活動などはどのようにされていますか。

◇内部には2つのチームを設けて、それぞれの専門分野で活動を行っています。

「イベント企画チーム」では、年数回のイベント実施のほか、新しいイベントの企画を行っています。「アグリチーム」では、農業分野において、若い担い手の育成指導と農産物の生産や新商品開発、さらには販売指導などを行っています。

◆これまでの活動は。

◇平成23年度には、4月に米町地内で使わなくなった鯉のぼりを持ち寄り、「不動の滝鯉流し」を行い、8月には「西能登やっっちゃ祭り」でステージイベントを志賀高校生徒で盛り上げ、2月には「富来大漁起舟祭」で、志賀高校生徒による大学草などを販売し、3月には志賀町文化ホールで、子供たちのステージを中心に「東日本大震災復興応援の集い」を開催し、多くのご来場をいただきました。



東京から移住した松尾さん

◆目標などをお聞かせください。

◇将来の地域活性化の基盤をつくるため、農業が抱える高齢化問題への対応や地元高校から雇用を創出し、農業による第6次産業化にチャレンジしていきます。

また、農地を活用し、子供たちによるイベントを企画・開催し、農業に親しんでもらい、活気ある農業を中心とするまちづくりを目指します。



茨城県出身の松村さん

議会広報特別委員会

- | | |
|-------|-------|
| 発行責任者 | 櫻井 俊一 |
| 議長 | 下池外巳造 |
| 委員長 | 福田 晃悦 |
| 委員 | 稲岡健太郎 |
| | 南 正紀 |
| | 寺井 隆正 |
| | 須磨 隆正 |